

お急ぎください 6/12が開催日!

第235回ゴム技術シンポジウム

「ゴムと異種材料接合の実際と接合の評価」

主催 : 一般社団法人日本ゴム協会 研究部会・接着研究分科会
協賛 : 日本化学会、高分子学会、自動車技術会、石油学会、繊維学会、日本機械学会、
(予定) 日本合成樹脂技術協会、日本材料学会、日本接着学会、日本複合材料学会、日本分析化学会、
日本レオロジー学会、プラスチック成形加工学会、マテリアルライフ学会、日本トライボロジー学会 (順不同)

.....
ゴム複合材料は自動車関係、土木建築、日用生活品、産業機器、情報電気、医療分野など現代の社会のあらゆる分野で使用されています。今回は、金属とエラストマーの流動体分子接合技術、ゴムと樹脂の接着界面のナノオーダーでの接着評価、応力発光による接着状態の可視化、ゴム接着剤として中国新化学物質環境管理弁法についてなど接着技術を紹介いたします。

日時 : 2017年6月12日(月) 午前9時55分~午後4時20分

場所 : 東京電業会館 地下ホール 東京都港区元赤坂1-7-8 TEL 03(3403)5181(代)

参加費 : 日本ゴム協会会員 協賛団体会員23,760円(税込)

受講者が日本ゴム協会の正会員でない場合でも、ご所属の会社が法人としてゴム協会会員(賛助会員)の場合は2名様まで会員扱いの受講料で受付けます。

日本ゴム協会学生会員 5,400円(税込) 会員外 32,400円(税込)

シニア制度対象会員 11,880円(税込、60歳以上の正会員)

申込方法 : 弊会ホームページ <http://www.srij.or.jp/>よりお申込みください。(定員80名)

送金方法 : 銀行振込(三井住友銀行 日比谷支店 普通No.7100847 一般社団法人日本ゴム協会)

振込み手数料は受講者側でご負担ください。

一度ご入金された受講料は返金いたしかねますのであらかじめご了承ください。

問合せ先 : 一般社団法人 日本ゴム協会 第235回ゴム技術シンポジウム係

(〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1階)

TEL 03 (3401) 2957 FAX 03 (3401) 4143 E-mail: okada@srij.or.jp

9:55~10:00 開会のあいさつ 接着研究分科会主査 平原 英俊

【座長】岩手大学 平原 英俊

10:00~11:00 アルミニウム基板とエラストマーの流動体分子接合

株式会社 朝日ラバー 根本 雅司 氏

分子接合技術は界面に一次結合(化学結合)を生成させることに原点をおいている。アルミニウム基板とエラストマーの流動体分子接合技術に関し、その架橋接合体のはく離試験におけるはく離強さ及びゴム部の破壊形態に及ぼす分子接合剤の処理条件及びゴム架橋条件の影響を紹介する。

11:05~12:05 ゴム材料と異種材料の接着と界面解析 (AFM 複合型赤外分析 (AFM nanoIR) と AFM 局所熱解析による界面表面の特性評価)

国立大学法人 岩手大学 特任研究員 桑 静 氏

ゴムと異種材料の接着界面の分析をAFMと100nm以下領域(空間分解能)における赤外スペクトル、赤外吸収マップ、AFM像、熱分析等の局所高分解能多機能測定による接着評価を紹介する。

【座長】(株)加藤事務所 江口 力人

13:00~14:00 応力発光による接着状態の可視化

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 寺崎 正 氏

安全担保・品質保証を鑑みて、機械的情報(応力/ひずみ分布、破壊予兆、破壊過程)の可視化が可能な、応力発光センシングについて、応力集中、き裂進展、接着不良の可視化等の実例を交えて紹介すると共に、構造接着の海外視察状況、ゴム分野への応用についても話題提供を行う。

14:05~15:05 中国新化学物質環境管理弁法のポイントについて

田岡化学工業株式会社 高 月輝 氏

【座長】ヘイシンテクノベルク(株) 東波 正浩

15:15~16:15 接着剤によるゴム材料と異種材料の接着(仮)

ロード・ジャパン・インク 株式会社 佐渡 優之 氏

16:15~16:20 閉会のあいさつ

接着研究分科会副主査 東波 正浩

※プログラムは一部変更になる場合がございます。

☆お申込みはホームページ <http://www.srij.or.jp/>からお願いします。